



## 〈 令和6年度「全国・学力学習状況調査」及び「県基礎学力調査」の結果について 〉

4月に標記学力調査が3年生を対象に行われました。学校では結果について分析・考察を行い、今後の学力向上の取組方針を定めましたのでお知らせします。「確かな学力」を身につけられるよう、これまでの学習指導を振り返り、授業の改善に努めてまいります。



教科	分析・考察	今後に向けて
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>話し合いの中の発言について、話の流れをふまえてその内容を捉えることができている。</li> <li>自分の考えを書いたり、表現の効果を説明したりする問いに対して、複数の条件を満たす解答に達していない傾向がある。</li> <li>文章に関係する図やグラフの必要性や存在意義、意図を読み取る力に課題が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>話し合いについて、今後は内容を捉えた上で、自分と他者の発言を結び付けて考えを深める力を伸ばしていく。</li> <li>授業や評価問題で二つ以上の条件を満たして自分の考えをまとめ、文章を書く機会を意識して設け、相互評価の時間を設定し、良さを理解する機会を設けていく。</li> <li>図やグラフを用いた文章で、何のために図やグラフがあるのか、また、図やグラフがあることによってどのような効果があるのかを考える課題を授業で取り上げたり、評価問題で出題したりする。</li> </ul>
社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体的に思考力を問う発問への正答率が高かった。資料を基に考察し、適切に表現することができる。</li> <li>世界の各地域やその地域の緯度・経度などの位置関係について理解が不足している。また、他地域との関係など結び付けた理解が弱い。</li> <li>日本の工業地帯・工業地域の特色についての理解が不足しており、資料から必要な情報を集約する力に課題が見られる。</li> <li>近世の基礎・基本となる歴史的事象について正確な知識が身につけていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日頃の授業から地図帳や大型テレビなど視覚資料を利用して、他地域との位置関係について理解できるようにする。</li> <li>他地域と比較することを通して、それぞれの地域の特色や課題について理解し、授業や評価問題等を通して、必要な情報を資料から読み取る力を養っていく。</li> <li>歴史的事象について、その原因や影響について調べる活動を授業で多く取り入れ、関連付けて理解できるようにする。</li> </ul>
数学	<ul style="list-style-type: none"> <li>図形、関数、データ活用の分野において、基本的な知識・技能を問うような問題の正答率は高い。</li> <li>「連続する二つの偶数」の意味が理解できておらず、正しく表現しきれていないため、文章による説明や証明の書き出しに課題が見られる。</li> <li>箱ひげ図の見方を理解し、その特徴を適切な用語を使って説明できるようにする必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業では具体的な数から想起するなどのスモールステップで、自力で文字式を作り出せるようにする。また、個人の習熟度に合わせて確実に説明や証明に取り組めるようにする。</li> <li>1年のヒストグラム、2年の箱ひげ図、3年の標本調査において、データから読み取れる事実を根拠に説明することを、説明例の模倣から始める活動を行っていく。</li> </ul>
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>身近に見られる科学現象の理由を文章で説明する問題や、実験操作の理由を文章で答える問題では、正答率が非常に高かった。</li> <li>知識に頼ってしまい、問題に提示された結果から考察することが苦手な傾向が見られる。</li> <li>学習後から時間が経過したことで、意味の理解が曖昧になっている理科学用語が見られた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、理由を班の中で説明したり、まとめの文章に表現させたりする取り組みを継続していく。</li> <li>実験結果から様々な視点で考察させ、文章で表現させる機会を設ける。</li> <li>小テストや復習テストなどで理科学用語を復習する。</li> </ul>

<b>英 語</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平易な文章から情報を正しく読み取る問題の正答率が高かった。</li> <li>・場面や状況に応じて適切な表現を用いることが難しく、前後の流れを把握し、正しく文法事項を活用していく技能が不足している。</li> <li>・文脈を読み取り、相手の行動を促すための適切な表現を理解する必要がある。</li> <li>・長い文章を聞いて、情報を整理し、必要な情報を聞き取ることに課題が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な場面や状況を提示し、その場面に応じた適切な表現を用いて書く活動を授業や定期テストで行っていく。また、正しく文法事項を活用することができるように基本本文の定着を図る。</li> <li>・長文の概要をつかんだり、タイトルをつけたりすることで、文章の流れをつかむことができるようにする。さらに、場面に応じて適切な表現を選択する問題を授業や定期テストで扱う。</li> <li>・Dictationの活動を取り入れ、正しく聞きとる技能を育成する。また、長い会話文や文章の中で、概要や必要な情報を聞き取る練習を授業や定期テストで行う。</li> </ul>
----------------	--	---

## ◇質問紙調査結果（抜粋）

学力調査に加え、学習状況（学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等）に関する調査も併せて行われました。昨年度と比較して肯定的な回答に向上が見られた調査項目を一部紹介します。

☆自己肯定感の高まり☆	令和6年度	令和5年度
自分には、よいところがあると思いますか	83.5%	80.0%
先生はあなたのよいところを認めてくれていると思いますか	90.4%	89.1%
<p>本校では、生徒一人一人の良いところを積極的に認めることを大切にしています。教師と生徒、生徒同士の関わり合いの中で認め合い、更なる向上を目指していきます。自己肯定感が高まることは、明日を生きる活力につながります。ご家庭でもお子様の良さを声に出して積極的に褒めてあげてください。</p>		

☆学校生活の楽しさ☆	令和6年度	令和5年度
学校に行くのは楽しいと思いますか	80.0%	77.8%
友達関係に満足していますか	90.3%	88.2%
<p>コロナ禍が明け、学校行事等の様々な制限がなくなり、生徒同士の直接的な触れ合いも多くなってきたことにより、学校に来る楽しさが増えてきたものと思われます。全ての生徒が「笑顔で登校」できるように、今後もよりよい人間関係づくりや魅力あふれる授業づくり等に取り組んでいきたいと思ひます。</p>		

☆授業に関する取組み☆	令和6年度	令和5年度
1. 2年生のときに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながらか、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか	84.7%	72.2%
1. 2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	84.7%	75.5%
自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか	73.9%	67.7%
<p>学校研究で取り組んでいる「自分の考えをまとめる」活動が定着し、大幅な向上が見られました。また、新学習指導要領における「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を目指して授業改善に取り組んでおり、子どもたちの学ぶ意識にも変化が見られているものと感じます。今後も「子供主体の授業」づくりに取り組み、学びの楽しさが実感できるように工夫していきたいと思ひます。</p>		

布水中学校のホームページにも学校生活のようすを随時記載していますので、ぜひご覧ください。学校への質問やご意見などがございましたら下記へどうぞ。

連絡先 076-248-0039 (担当 教頭 南・主幹 東方)

メール [fusuityul@ed.city.nonoichi.ishikawa.jp](mailto:fusuityul@ed.city.nonoichi.ishikawa.jp)